

令和 7 年度入学者用

金沢大学大学院新学術創成研究科
ナノ生命科学専攻
(博士前期課程・博士後期課程)

ガイドブック



GRAfINiti

新学術創成研究科

I 新学術創成研究科の教育研究上の目的	1
II ナノ生命科学専攻の教育理念・目的、養成する人材像	1
III 指導教員一覧	3
IV 令和7年度学年暦	4
V 【博士前期課程】履修概要	5
1 科目一覧	5
2 学期・授業時間	6
3 授業科目の体系と区分・単位修得要件	6
4 修了要件	8
5 早期修了制度	9
6 長期履修制度	9
7 履修モデル	10
8 履修登録・成績通知等	10
VI 【博士前期課程】教育・研究指導体制	11
1 主任研究指導教員	11
2 副主任研究指導教員	11
3 面談教員	11
4 研究計画書	11
VII 【博士前期課程】学位授与	12
1 学位申請	12
2 修士論文の提出	12
3 最終発表	12
4 学位論文審査	12
5 学位の授与	12
6 授与する学位	12
7 博士論文研究基礎力審査	12
8 学位取得に至るスケジュール	12
VIII 【博士後期課程】履修概要	14
1 科目一覧	14
2 授業科目の体系と区分・単位修得要件	15
3 修了要件	16
4 早期修了制度	17
5 長期履修制度	17
6 履修モデル	18
7 履修登録・成績通知等	18

8	研究留学・学外高度実習	19
IX	【博士後期課程】教育・研究指導体制	21
1	主任研究指導教員	21
2	副主任研究指導教員	21
3	面談教員	21
4	研究計画書	21
X	【博士後期課程】学位授与	22
1	学位申請	22
2	博士論文の提出	22
3	最終発表	22
4	学位論文審査	22
5	学位の授与	22
6	授与する学位	22
7	学位取得に至るスケジュール	22
XI	ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム	24
XII	その他	25
1	事務からの連絡	25
2	学生証	25
3	アカンサスポータル・金沢大学 ID	25
4	KAINS ID・E メールアドレス	25
5	VPN の設定	26
6	マイクロソフト包括ライセンス	26
7	ソフトウェア等の不正利用の厳禁	26
8	休学・復学・退学	26
9	経済支援	26
10	各種証明書	27
11	駐車許可証	27
12	各種手続	27
13	住所等の登録・変更	27
	新学術創成研究科規程	27

I 新学術創成研究科の教育研究上の目的

新学術創成研究科は、革新的かつ新しい学問・産業の分野・領域の創成につながる異分野融合的な研究による成果や社会との往還を基盤に大学院教育を展開することで新たな学術の創成に寄与し、学際性・総合性・国際性を有する研究者や産業人等を育成することを目的とする。

II ナノ生命科学専攻の教育理念・目的、養成する人材像

金沢大学が有する世界最先端の SPM 技術を用い、ナノレベルでの原子・分子の動態計測及び動的挙動制御を生命・物質科学分野に展開し、「未踏ナノ領域」を切り拓く博士人材を養成することを目的として、博士課程「ナノ生命科学専攻」（以下、「本専攻」と表記。）を本学に設置した。具体的には、NanoLSI の研究実績を基盤とし、“高性能 SPM 等の革新的ナノ動態計測技術の研究開発に取り組む人材”と、“最先端の動態計測技術をナノレベルの生命現象の解明に向けた研究に展開する人材”の養成を行う。

○ ナノ生命科学専攻において学ぶ4つの領域

1：ナノ計測学 通常の顕微鏡技術では観察不可能なナノ現象を直接観察・理解する

ナノ計測学分野においては、世界トップレベルの SPM 技術による分子細胞動態のナノスケール・ライブイメージング技術を基に、「ナノ計測制御基礎論」、「ナノ生物物理学」、「ナノバイオ材料科学」等の科目で先端ナノ計測技術である各種 SPM 技術や蛍光計測技術、生体分子（核酸・タンパク質・脂肪）のメカニズムやその機能発現に伴う動的な構造変化について知見を高める。

2：超分子化学 プローブ等へ応用し、革新的ナノ計測技術の開発へつながると考えられる分子複合体の設計・合成

超分子化学分野においては、世界的な注目を集めている新規柱型リング状分子の開発等をはじめとする高度な制御性を持つ分子複合体を設計・合成できる知見・技術を基に、「高分子材料合成化学」、「錯体機能化学探求」等の科目で高分子や超分子等の機能や分子構造について知見を高める。

3：生命科学 ナノ計測技術の応用先として期待されるがん等の生命科学研究

生命科学分野においては、がん研究に特化した国内唯一の共同研究拠点である本学がん進展制御研究所において卓越した実績を上げているがん幹細胞・微小環境分子標的治療の研究を基に、「遺伝子発言制御学」、「ヒューマン分子生物学」等の科目でがんに関連する分子生物学やがんの分子標的治療について知見を高める。これにより、分子細胞動態（細胞の分化・増殖、幹細胞性、シグナル伝達、ゲノム動態等）をナノ動態計測技術と融合し、がん悪性化メカニズムの解明に向けた研究に展開する素養を身に付ける。

4：数理計算科学 計測で得られた実験結果から、原子・分子レベルの動態を知るためのマルチスケールシミュレーションを目指す

数理計算科学分野においては、生体分子から細胞レベルまでの複雑系シミュレーションで多くの実績を持つ研究者による「計算ナノバイオ科学」等の科目で生体分子の計算機シミュレーションのための物理モデルや解析法について知見を高める。これにより、物質・細胞の動きを空間・時間といった様々な階層で数理計算により解析するマルチスケールシミュレーションをナノ動態計測技術と融合し、ナノスケール分解能で得られた複雑な分子細胞動態を分子運動から解明する研究に展開する素養を身に付ける。

博士前期課程

【養成する人材像】

あくなき探求心と人・科学・社会に貢献する高い志を持ち、世界最先端のナノ動態計測・制御の知識と生命・物質科学分野の知見や感性を併せ持ち、未踏ナノ領域に向かう研究の素養を身につけた人材。

【ディプロマ・ポリシー】

博士前期課程では、ナノ生命科学領域の授業や様々な研究活動を通じて、次に掲げる能力を修得させるとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、修士論文の審査及び最終試験、若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格した学生、又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に「修士（ナノ科学）」の学位を授与する。

- 1) ナノ生命科学に関する全方位的な研究を行うための基礎力
- 2) 自身の研究分野と他分野を融合させた研究計画を立案する能力
- 3) 未踏の学際領域や新たな分野に積極的に関与する意欲と能力
- 4) 基盤的な研究分野に係るプレゼンテーション力・コミュニケーション力・文書作成能力

【カリキュラム・ポリシー】

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果に到達するため、ナノ生命科学領域に関するカリキュラム（教育課程）を編成する。具体的には、以下のように科目を体系的に編成する。

- 1) 研究者として未踏領域に挑戦する意欲を育み、科学に対する視野を広げるための基幹教育科目
- 2) 分野融合を重視したナノ生命科学領域を学ぶに当たり必要な基礎的知識を基礎及び専門の 2 つのレベルに区分して、自らの研究分野以外の領域を含め、体系的に学ぶナノ生命科学基盤科目
- 3) 研究していく上で必要となる基礎的な技能を身に付けるためのスキル科目
- 4) 分野融合研究や学内外での多様な研究に参画し、他者とコミュニケーションしながら科学に向き合う姿勢を身に付けるためのプロジェクト科目
- 5) 自身の研究分野に関する課題を発見し、プレゼンテーション力、文書作成能力を涵養する研究推進科目

博士後期課程

【養成する人材像】

あくなき探求心と人・科学・社会に貢献する高い志を持ち、世界最先端のナノ動態計測・制御を生命・物質科学分野に展開し、未踏ナノ領域を切り拓く研究人材。

【ディプロマ・ポリシー】

博士後期課程では、ナノ生命科学領域の授業や様々な研究活動を通じて、次に掲げる能力を修得させるとともに、所定の期間在学し、かつ所定の単位を修得した上で、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に「博士（ナノ科学）」の学位を授与する。

- 1) ナノ生命科学に関して自身の探求心・興味・関心に基づき全方位的に研究を実施できる能力
- 2) 自身の研究分野と他分野を融合させ研究を完遂する能力
- 3) 未踏の学際領域や新たな分野を開拓する能力
- 4) 最先鋭の研究に係るプレゼンテーション力・多言語コミュニケーション力・論文作成能力

【カリキュラム・ポリシー】

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる学修成果に到達するため、ナノ生命科学領域に関するカリキュラム（教育課程）を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。

- 1) ナノ生命科学研究者として全方位的な研究を行うために必要な視点を強固にするための基幹展開科目
- 2) 新たな領域の研究に挑戦するために必要な最新の知見等を学ぶ深淵レベルのナノ生命科学革新科目
- 3) 最先端の研究者として必須となる実践的な研究技能を身に付けるための高度スキル科目
- 4) 分野融合研究や学内外での先鋭的な研究に参画し、国内外の研究者とコミュニケーションしながら、真理を探究する姿勢を身に付け、研究者としての実践を積むための高度プロジェクト科目
- 5) 自身の研究分野に関する課題を解決し、研究完遂能力・プレゼンテーション力を涵養する高度研究推進科目

Ⅲ 指導教員一覧

ナノ生命科学専攻 教員紹介ページ参照

<https://gsinfinity.w3.kanazawa-u.ac.jp/nano/faculty/>

IV 令和7年度学年暦

第1クォーター・第2クォーター

第3クォーター・第4クォーター

曜	日	月	火	水	木	金	土	
4	30	31	履修 ガイダンス	学類オリ	学類オリ	入学 宣誓式	5	Q1:4/1(火)開始
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	1	2	3	
5	4	5	6	火	8	9	10	Q2:6/11(水)開始
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
6	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
7	29	30	1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	月	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1	2	
8	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
9	31	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	学位 授与	27	
	28	29	30					
授業*		7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回	
試験*		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回	

曜	日	月	火	水	木	金	土	
10	28	29	30	入学 宣誓式	2	3	4	Q3:10/1(水)開始
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	月	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	設営	金大祭	
11	金大祭	撤収	4	5	月	7	8	Q4:12/8(月)開始
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	1	2	3	4	5	6	
12	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	
1	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	金	14	15	設営	共通 テスト	
	共通 テスト	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
2	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	TOEIC-IP		14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	前期 日程	前期 日程	27	28	
3	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	学位 授与	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31					
授業*		7.5	7.5	7.5	7.5	7.5	回	
試験*		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	回	

授業日 試験日 休業日 夏季・冬季・春季休業、休講日 インターバル*2

- 健康診断(宝町・在学者) 4/15(火)・4/16(水)

○健康診断(角間・在学者) 4/18(金)～5/15(木)

○履修ガイダンス 4/1(火)

○学類等オリエンテーション 4/2(水)・4/3(木)

○4月期入学宣誓式 4/4(金)

○第1クォーター授業開始 4/7(月)

曜日振替日(火曜扱いの授業日) 5/7(水)

Q1 補講週間 5/15～5/28の6限(2週間)

春季対面型キャンパスビジット(仮) 5/17(土)

金沢大学開学記念日 5/31(土)

○健康診断(学士1年次) 6/5(木), 6/9(月), 6/10(火)

○第2クォーター授業開始 6/11(水)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 7/23(水)

Q2 補講週間 7/16～7/30の6限(2週間)

Webキャンパスビジット(仮) 8/1(金)～8/14(木)

※リアルタイム配信(仮) 8/7(木)・8/8(金)

9月期学位記授与式 9/26(金)
- 10月期入学宣誓式 10/1(水)

○第3クォーター授業開始 10/1(水)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 10/15(水)

金大祭 11/1(土)・11/2(日)

金大祭設営・撤収 10/31(金)・11/3(月・祝)

曜日振替日(月曜扱いの授業日) 11/6(木)

Q3 補講週間 11/10～11/21の6限(2週間)

○第4クォーター授業開始 12/8(月)

曜日振替日(金曜扱いの授業日) 1/13(火)

共通テスト設営 1/16(金)

共通テスト 1/17(土)・1/18(日)

Q4 補講週間 1/21～2/3の6限(2週間)

TOEIC-IP(1年次)(仮) 2/12(木)・2/13(金)

前期日程入試 2/25(水)・2/26(木)

学位記・修了証書授与式 3/20(金・祝)

* 授業回数, 試験回数は各クォーターにおける開講数を示す。 *2 インターバルは休講日であるが, 試験や補講, 集中講義を行うことがある。

V 【博士前期課程】履修概要

1 科目一覧

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位		履修要件		
					必修	選択			
基幹教育科目			異分野研究探査Ⅰ	1	0.5		・基幹教育科目から、必修科目を含む4単位以上修得すること。 ・※1から1単位以上修得すること。 ・※2から1単位以上修得すること。		
			異分野研究探査Ⅱ	1	0.5				
			研究者倫理	1	1				
			知識集約型社会とデータサイエンス ※1	1		1			
			次世代の先端科学技術 ※1	1		1			
			スマート創成科学 ※1	1		1			
			イノベーション方法論 ※1	1		1			
			数理・データサイエンス・AI基盤 ※1	1		1			
			ビジネス・技術マネジメント戦略論※2	1		1			
			破壊的イノベーションに向けた技術経営論 ※2	1		1			
			ヘルスケア・イノベーション ※2	1		1			
			人間と社会の課題 ※2	1		1			
ナノ生命科学基盤科目	基礎		ナノ生命科学基礎	1	1		・ナノ生命科学基盤科目(専門)から、ナノ計測学分野の科目を2単位以上含む6単位以上修得すること。		
			ナノ計測工学基礎	1	1				
			超分子化学探求	1	1				
			生命科学探求	1	1				
			数理計算科学探求	1	1				
	専門		ナノ計測学		ナノ計測制御基礎論A	1・2			1
					ナノ計測制御基礎論B	1・2			1
					ナノ生物物理学A	1・2			1
					ナノ生物物理学B	1・2			1
			超分子化学		物質創成化学探求	1・2			1
					錯体合成化学探求	1・2			2
					高分子材料合成化学	1・2			2
			生命科学		ヒューマン分子生物学1	1・2			1
					ヒューマン分子生物学2	1・2			1
					ヒューマン分子生物学3	1・2			1
					ヒューマン分子生物学4	1・2			1
			数理計算科学		計算バイオ科学A	1・2			1
					計算バイオ科学B	1・2			1
スキル科目			博士研究スキル養成	1～2	1		・スキル科目から、必修科目を含む1単位以上修得すること。		
			博士論文スキル養成	1～2		1			
プロジェクト科目◆			融合研究プロジェクト実習	1～2	4		・プロジェクト科目から、必修科目を含む5単位以上修得すること。		
			萌芽的融合研究実習	1・2	1				
			学外実務プロジェクト実習	1・2		1			
			学外研究プロジェクト実習	1・2		2			
研究推進科目			創造的学際演習Ⅰ◆	1～2	1		・研究取りまとめに修士論文を選択する者は、研究推進科目から、「ナノ生命科学修士研究」を履修し、必修科目を含む8単位以上修得すること。 ・研究取りまとめに博士研究基礎力審査を選択する者は、研究推進科目から、「ナノ生命科学博士研究調査」を履修し、必修科目を含む4単位以上修得すること。		
			創造的学際演習Ⅱ◆	1～2	1				
			創造的学際演習Ⅲ◆	1～2		1			
			ナノ生命科学修士研究	1～2		6			
			ナノ生命科学博士研究調査	1～2		2			

研究の取りまとめに修士論文を選択する者は30単位以上、博士論文研究基礎力審査を選択する者は32単位以上修得すること。

◆マークは事務で履修登録するため学生の登録不要。

2 学期・授業時間

学期、授業期間及び授業時間は以下のとおりである。

授業は1回90分で週に1回の受講となる。ただし、一部例外で週2回行うものや、セメスターで行うものがあるため注意すること。1単位のクォーター科目であれば8週間で終了する。

学期		授業時間
前期	第1クォーター (8週間)	1時限 8:45 ~ 10:15
	第2クォーター (8週間)	2時限 10:30 ~ 12:00
後期	第3クォーター (8週間)	3時限 13:00 ~ 14:30
	第4クォーター (8週間)	4時限 14:45 ~ 16:15
		5時限 16:30 ~ 18:00
		6時限 18:15 ~ 19:45

3 授業科目の体系と区分・単位修得要件

3.1 基幹教育科目

「基幹教育科目」は、研究者として未踏領域に挑戦する意欲を育み科学に対する視野を広げることを目的とし、1年次に配当する。「研究者倫理」(1単位)、「異分野研究探査Ⅰ」「異分野研究探査Ⅱ」(各0.5単位)を設け、必修科目として位置付ける。「研究者倫理」では、研究に従事する者に求められる倫理、規範意識、科学の社会的責任について取り扱う。「異分野研究探査」では、これまでの自身の研究とは大きく異なる研究に直接触れさせ、学生の視野を広げる。また、選択科目として、9科目(各1単位)を設ける。

【基幹教育科目の単位修得要件】

- ・「研究者倫理」を履修すること。
- ・「異分野研究探査Ⅰ」「異分野研究探査Ⅱ」を履修すること。「異分野研究探査Ⅰ」は自身の所属する専攻とは異なる専攻の研究室の教員(CategoryⅠ)、「異分野研究探査Ⅱ」は専攻内の別の研究室の教員(CategoryⅡ)とする。
- ・「知識集約型社会とデータサイエンス」「次世代の先端科学技術」「スマート創成科学」「イノベーション方法論」「数理・データサイエンス・AI基盤」から1単位以上修得すること。
- ・「ビジネス・技術マネジメント戦略論」「破壊的イノベーションに向けた技術経営論」「ヘルスケア・イノベーション」「人間と社会の課題」から1単位以上修得すること。

3.2 ナノ生命科学基盤科目(基礎)

「ナノ生命科学基盤科目」は、分野融合を重視したナノ生命科学領域を研究するに当たり必要な知識を「基礎科目」及び「専門科目」の2つのレベルに区分する。

「基礎科目」は、1年次に必修科目として5科目を配当する。

ナノ計測学の基本を身につけるために2科目を設ける。具体的には、「ナノ生命科学基礎」においては、ナノ生命科学の基盤となる技術であるバイオSPMの基礎を学ぶ。この中では、本学が誇るバイオSPMの基本原理やその他のバイオイメージング技術について概説し、ナノスケールのバイオSPM技術をベースとしたナノ生命科学の基礎となる知識を学ぶ。また、この科目では、バイオSPMの開発過程に触れることにより、ナノ生命科学研究に向かう意欲を養う。また、「ナノ計測工学基礎」では、計測全般や電気計測などの基礎を学ぶとともに、バイオ応用以外のナノ計測の基本原理や応用例について学ぶ。そのほか、「超分子化学探求」ではケミカルバイオロジーやNMRなど含む超分子化学の基礎的知識を、「生命科学探求」ではがん研究を含む生命科学の基礎的

知識を、「数理計算科学探求」では理論・シミュレーション・機械学習などの数理的手法の基礎などを学ぶ。

【ナノ生命科学基盤科目（基礎）の単位修得要件】

・「ナノ生命科学基礎」、「ナノ計測工学基礎」、「超分子化学探求」、「生命科学探求」、「数理計算科学探求」の5単位全て修得すること。

3.3 ナノ生命科学基盤科目（専門）

「基礎科目」で学んだことを踏まえ、「専門科目」では、4分野について、より専門的に展開した内容を学ぶ。博士前期課程では、「自身の探求心・興味・関心に基づき、全方位的に研究を実施できる能力」を養うために必要な知識を自ら選ばせることが重要と考える。しかしながら、自らの専門分野に偏ることなく、体系的な科目履修を行うことも重要である。そのため、各分野2～4科目を配置し、満遍なく履修できるよう配慮するとともに、ナノ生命科学の核となる「ナノ計測学」の分野から2単位を含む6単位を履修することを義務付ける。

【ナノ生命科学基盤科目（専門）の単位修得要件】

・「ナノ計測学」分野の科目を2単位以上含む、6単位以上修得すること。

3.4 スキル科目

研究していく上で必要となる基礎的な技能を身に付けるための「スキル科目」においては、「博士研究スキル養成」（1単位）を必修科目として位置付け、立案するスキルとプレゼンテーションに関するスキルを修得させる。この科目では、研究計画を立案するにあたり、実験の原理を理解した上で実験を正確にこなすスキル、実験装置の原理を理解した上で正しい操作を実践できるスキル、実験結果の意義を理解するスキル、実験結果を適切な統計手法を用いて提示する技術、データベースや文献などによる情報収集の方法やその分析方法、文章化する方法を学ぶ。また、研究者として、学会や会議等で発表するためのプレゼンテーション技法などを扱う。また、選択科目として、「博士論文スキル養成」を設け、科学技術論文を深く理解するとともに研究内容を紹介する訓練を行うとともに、学術論文執筆に必要となる日本語、英語での表現について学修する。

【スキル科目の単位修得要件】

・「博士研究スキル養成」を含む1単位以上修得すること。

3.5 プロジェクト科目

他者とコミュニケーションしながら科学に向き合う姿勢を身に付けるための「プロジェクト科目」においては、「融合研究プロジェクト実習」（4単位）と「萌芽的融合研究実習」（1単位）を必修科目として位置付ける。「融合研究プロジェクト実習」では、ナノ生命科学研究所の研究に参画する。研究を実施できる能力や研究デザイン能力、未踏の学際領域や新たな分野に積極的に関与する意欲と能力を養う。また、「萌芽的融合研究実習」では、融合研究プロジェクトに参画する。これにより技術の修得や研究への意欲の喚起を図る。

「学外実務プロジェクト実習」は、研究科において認めた2週間以上のインターンシップを単位認定する。また、「学外研究プロジェクト実習」は、本学以外の大学、研究機関等において2週間以上の研究実習を単位認定する。いずれも、実習を開始する1か月前にまでに大学院係まで申し出ること。

【プロジェクト科目の単位修得要件】

・「融合研究プロジェクト実習」、「萌芽的融合研究実習」を含む5単位以上修得すること。

3.6 研究推進科目

修士研究の取りまとめの方法として、「修士論文」又は「博士論文研究基礎力審査」のいずれかを選択することができる。その研究取りまとめを支援する科目として、1年次から2年次において、自身の研究分野に関する課題を発見し、研究デザイン能力、プレゼンテーション力、文書作成能力を涵養する「研究推進科目」を設ける。

副指導教員から研究指導を受ける「創造的学際演習Ⅰ」、「創造的学際演習Ⅱ」（各1単位）を設け、必修科目として位置付ける。本専攻では、1名の異分野からの指導教員を含む2名の副研究指導教員を配置するため、それぞれから指導を受ける。具体的には、1年に2回を目安として、2名の副指導教員からの研究指導を受ける。また、最終的な研究取りまとめのアプローチを支援する科目として、「ナノ生命科学修士研究」（6単位）、「ナノ生命科学博士研究調査」（2単位）を配置し、いずれかを選択する選択必修科目として位置付ける。「ナノ生命科学修士研究」においては、主任指導教員の下、自身の研究課題を決定し、同時に副研究指導教員による他の研究分野でのゼミナール・演習への参加を通して得た新たな知見、研究手法を取り入れながら修士論文をまとめる。博士後期課程に進学する者で、「ナノ生命科学博士研究調査」を選択する者は、将来的に博士論文をまとめ、提出・発表することを目指し、より高度なレベルでの専門分野に関する知識・能力及び関連分野に係る基礎的素養を得るための関連論文・データの収集、実験・調査等の手法を学び、博士研究計画調査報告書をまとめる。

【研究推進科目の単位修得要件】

※ 選択した研究取りまとめの方法ごとに、それぞれの要件を満たしていること。

(1) 「修士論文」選択者

・「ナノ生命科学修士研究」、「創造的学際演習Ⅰ」及び「創造的学際演習Ⅱ」を含む8単位以上修得すること。

(2) 「博士論文研究基礎力審査」選択者

・「ナノ生命科学博士研究調査」、「創造的学際演習Ⅰ」及び「創造的学際演習Ⅱ」を含む4単位以上修得すること。

4 修了要件

以下に示す要件を全て満たしていることが修了に必要なとなる。なお、修了要件を満たしているか否かの確認は、指導教員と相談の上、各自責任を持って行うこと。

- (1) 博士前期課程に2年以上在学すること。ただし、優秀な成績をあげた者は、1年以上在学すれば足りるものとする。
- (2) 必要な研究指導を受けた上で、修士論文研究選択者は、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。博士論文研究基礎力審査選択者は、博士論文研究基礎力審査願を提出し、博士論文研究基礎力審査に合格すること。
- (3) 前述の3.1から3.6の単位修得要件を満たして認定を受けた単位を含めて、計30単位以上を修得すること。ただし、研究取りまとめの方法として博士論文研究基礎力審査を選択した者は、計32単位以上を修得すること。
- (4) 他専攻で開講される科目は、15単位まで修了要件に含めることができる。ただし、修士課程もしくは博士前期課程の科目かつ当該研究科が履修を許可した科目に限る。
- (5) 入学前に他大学院で修得した単位及び本学他研究科を含む他大学院で修得した単位は、研究科会議が認めた場合、(4)と合わせて15単位まで修了要件に含めることができる。
- (6) 本学では英語能力強化の一環として、博士前期課程に入学した学生は、原則全員が、英語の外部検定試験を在学中に受験することとしている。修了予定月の3か月前までに在学期間中に受験したスコアの控えをアカンサスポータルに登録すること。これを「ナノ生命科学修士研究」又は「ナノ生命科学博士研究調査」の単位認定の要件とする。

TOEIC (Listening & Reading Test) TOEIC (Listening & Reading IP Test)	TOEFL-iBT	TOEFL-ITP	IELTS
400	40	433	4

なお、以下に該当する場合は英語検定試験の受験を免除することができる。

- ① 本学が定める達成基準（TOEIC 760 点、TOEFL-iBT 80 点、TOEFL-ITP 550 点又は IELTS 6.0 以上、英検準 1 級）を満たし、入学時点において有効なスコアを有する者
※ただし、入学日から遡って 2 年以内に受験したものをアカンサスポータルに登録すること
- ② 英語母語話者
一般に英語を公用語とする国（以下参照）に生まれ育ち、英語を第一言語として獲得した者をいう。
英語母語話者を判定する手段として当人の国籍を用いる。なお、英語母語話者と判定された場合でも、主任研究指導教員の判断により受験させることができる。

英語を公用語とする国一覧

アイルランド、アメリカ、アンティグア・バーブーダ、イギリス、イスラエル、インド、ウガンダ、エリトリア、オーストラリア、ガイアナ、ガーナ、カナダ、カメルーン、ガンビア、キリバス、クック諸島、グレナダ、ケニア、サモア、ザンビア、シエラレオネ、ジャマイカ、シンガポール、ジンバブエ、スーダン、スワジランド、セーシェル、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン、セントルシア、ソマリランド、ソロモン諸島、タンザニア、ツバル、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、トンガ、ナイジェリア、ナウル、ナミビア、ニウエ、ニュージーランド、パキスタン、パヌアツ、パハマ、パプアニューギニア、パラオ、バルバドス、フィジー、フィリピン、ベリーズ、ボツワナ、マーシャル諸島、マラウイ、マルタ、ミクロネシア連邦、南アフリカ、南スーダン、モーリシャス、リベリア、ルワンダ、レソト

- (7) 修士論文（課題研究を含む）の外国語での執筆を推奨するが、特別な事情による例外措置を認める。例外措置を適用した場合は、論文の内容を記述した英語での文書（ショートペーパー：修士論文では 400～800 語程度、図表入りで 2 ページ以内）を別途作成し、論文に付すること。なお、上記の文書を付する場合も、併せて日本語の論文要旨を提出することは差し支えないものとする。

5 早期修了制度

在学中に優秀な実績を上げた者は、在学期間を短縮し早期修了することができる。

早期修了の基準は以下のとおりである。希望する者は、早期修了を希望する学位申請の 1 か月前までに大学院係まで申し出ること。

- ① 早期（短期）修了を希望する学位申請の時点の直前の学期（クォーター）において、修了要件のうち、研究推進科目以外の必修単位を修得していること、かつ、修了時まで単位修得要件を満たす見込みであること。
- ② 早期（短期）修了を希望する月の 3 か月前までに、学生本人が筆頭著者又は責任著者であり、かつ、博士前期課程在学中に投稿した査読付き学術論文（掲載される雑誌は、Scopus に掲載されている学術誌に限る。）が 1 本以上公表又は掲載決定されていること。

6 長期履修制度

職業を有している等の事情により標準修業年限内での修学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認める。

長期履修期間を短縮して学位申請を行う場合、事前に（修了を希望するおおよそ 7 か月前までに）短縮手続き

が必要になるので注意すること。

7 履修モデル

	博士前期課程修了	博士前期課程修了	博士前期課程修了
研究推進科目； (修士論文) 8単位必修 (QE) 4単位必修	創造的学際演習Ⅰ 創造的学際演習Ⅱ ナノ生命科学修士研究	創造的学際演習Ⅰ 創造的学際演習Ⅱ ナノ生命科学修士研究	創造的学際演習Ⅰ 創造的学際演習Ⅱ ナノ生命科学修士研究
プロジェクト科目； 5単位必修	融合研究プロジェクト実習 萌芽の融合研究実習	融合研究プロジェクト実習 萌芽の融合研究実習	融合研究プロジェクト実習 萌芽の融合研究実習
スキル科目； 1単位必修	博士研究スキル養成 博士論文スキル養成	博士研究スキル養成	博士研究スキル養成
ナノ生命科学専攻科目 専門： ナノ計測学2単位を 含む6単位修得 基礎： 5単位必修	ナノ計測制御基礎論 A, B ナノ生物物理学 A, B 高分子材料合成化学	ナノ計測制御基礎論 A, B ナノ生物物理学 A, B ヒューマン分子生物学1, 2	ナノ計測制御基礎論 A, B 物質創成化学探求 錯体合成化学探求 高分子材料合成化学
	ナノ生命科学基礎 ナノ計測工学基礎 超分子化学探求 生命科学探求 数理計算科学探求	ナノ生命科学基礎 ナノ計測工学基礎 超分子化学探求 生命科学探求 数理計算科学探求	ナノ生命科学基礎 ナノ計測工学基礎 超分子化学探求 生命科学探求 数理計算科学探求
基幹教育科目； 4単位必修	異分野研究探査Ⅰ 異分野研究探査Ⅱ 研究者倫理 選択必修科目	異分野研究探査Ⅰ 異分野研究探査Ⅱ 研究者倫理 選択必修科目	異分野研究探査Ⅰ 異分野研究探査Ⅱ 研究者倫理 選択必修科目
	ナノ計測を研究する学生	生命科学を研究する学生	超分子化学を研究する学生

8 履修登録・成績通知等

8.1 履修登録

履修登録は、Web を利用して行う。詳細は学生便覧を確認すること。

本専攻開講科目以外の科目の履修を希望する場合は、「**他専攻授業科目履修願**」(様式は研究科 Web サイトよりダウンロード可) に必要事項を記入し、授業担当教員及び主任研究指導教員の許可を受けた上、本研究科が指定した期間 (Q1・Q2・Q3・Q4 の計4回) に大学院係まで提出すること。

履修登録日程・時間割は、以下を参照

<https://gsinfinity.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/>

「金沢大学大学院新学術創成研究科 Web サイト」→「在学生へ」→「ナノ生命科学専攻」

8.2 成績通知

成績は Web により通知する。

8.3 シラバス

シラバスは本学 Web サイトにて公開する。

VI 【博士前期課程】教育・研究指導体制

教育・研究指導体制として、まず1年次4月、出願時に希望した主任研究指導教員の研究室に配属し、その後、速やかに副主任研究指導教員を決定する。これにより、教員が連携して研究指導を行う体制を確保し、学生個人ごとにきめ細やかな指導を行う。

1 主任研究指導教員

主任研究指導教員は、当該学生に対する教育研究上の指導の中心を担うものであり、研究テーマに関する授業の履修指導、研究指導、学位论文の作成指導等を行い、副主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の指導に注力する。

2 副主任研究指導教員

副主任研究指導教員は、主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の研究が複数の科学分野の融合を実践していけるものとなるよう、主任研究指導教員とは異なる見地からの指導・助言を行う。

3 面談教員

面談教員は、直接研究指導に携わる主任研究指導教員や副主任研究指導教員とは異なる立場から学生との面談を行い、研究の進捗状況及び研究環境全体（学生生活含む）に関する問題の早期発見、相談、助言を行う。なお、面談教員の決定通知後は、学生が直接、担当教員へ連絡を取り、年2回（6月・11月頃目安）の面談を受けること。

4 研究計画書

主任研究指導教員指導のもと、研究テーマ、研究目的、研究内容、及び入学から学位取得までの研究スケジュール、及び各年度の履修科目を策定する。

1. 入学後速やかに、研究計画書（様式1）に入学から修了までの研究計画を作成し、主任研究指導教員から研究指導の計画を受け、指導教員と協議の上決定する。研究計画書（様式1）は、主任研究指導教員及び学生相互に保管する。
2. 主任研究指導教員に定期的に研究の進捗状況に関する報告を行い、主任研究指導教員と協議の上、必要に応じて1.で作成した研究計画を見直し、修正する。
3. 各年度当初には、研究計画書（様式1）に沿って履修及び研究計画書（様式2）を作成し、主任研究指導教員に提出すること。

研究計画書様式：<https://gsinfinity.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/>

Ⅶ 【博士前期課程】学位授与

1 学位申請

研究推進科目を除く修了要件を満たす見込みがつき、学位の授与を申請する者は、主任研究指導教員の下承を得た上で、学位申請書及び必要な書類を大学院係に提出しなければならない。

学位申請書の提出時期は、修了予定月の3か月前の本学が指定する日までとする。

2 修士論文の提出

修士論文を選択する学位申請者は、主任研究指導教員の下承を得た上で、本学が指定する日までに修士論文を大学院係に提出しなければならない。

博士研究計画調査を選択する学位申請者には、別途通知する。

3 最終発表

学位論文の審査に向けて、2年次2月に、研究活動の最終発表会を行う。また、最終発表会は、他専攻の教員や学生にも公開する。

4 学位論文審査

学位論文審査の審査委員は、3名以上で構成する。審査に当たっては、最終発表で付された評価や意見を十分に考慮した上で判定を行う。

5 学位の授与

上述の学位論文審査の結果を踏まえて、研究科会議において、学位の授与に関する審査について審議する。研究科会議では、学位論文審査結果を基に、学生の最終発表で付された評価や意見についても確認した上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる

- ① ナノ生命科学に関する全方位的な研究を行うための基礎力
- ② 自身の研究分野と他分野を融合させた研究計画を立案する能力
- ③ 未踏の学際領域や新たな分野に積極的に関与する意欲と能力
- ④ 基盤的な研究分野に係るプレゼンテーション力・コミュニケーション力・文書作成能力

の観点から合議により審議する。当該結果を受けて研究科会議等における必要な議を経た後、学位を授与する。

6 授与する学位

修士（ナノ科学）

7 博士論文研究基礎力審査

博士後期課程への学内進学者は、修士論文の代わりに博士論文研究基礎力審査（QE）による博士前期課程の修了を原則とする。詳細は別途通知する。

研究室配属等、修士論文選択者と共通するスケジュールについては、次項「8 学位取得に至るスケジュール」を参照すること。

8 学位取得に至るスケジュール

以下は、4月入学で、修士論文研究を選択した学生の、2年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。以下は主な事項のみを記してあるため、これ以外の事項及び具体的な日程については、研究科 Web サイト

ト等で確認すること。

10月入学者の場合は、おおむね半年後ろにずれることとなる。

月	1 年次	2 年次
4 月	・研究室配属 ※ 主任研究指導教員（本学）の研究室に配属 ・副主任研究指導教員の決定 ・基幹教育科目の履修 ※ Q1 から Q4 に履修（目安）	
5 月	・研究計画書の作成 ・面談教員の決定	
6 月		・中間発表会 ・博士論文研究基礎力審査受験申請（QE） ・学位審査願提出（QE）
9 月		・博士論文研究基礎力審査（QE） ※博士論文研究基礎力審査に係る合否判定 ※不合格者は修士論文提出に変更可
12 月		※以下について完了していること ・英語スコアの登録 ・学位申請書等提出（QE 選択者を除く）
1 月		・修士論文提出
2 月		・最終発表会(QE 選択者も) ・修士論文審査
3 月	・研究取りまとめの方法を「修士論文」、「博士研究計画調査」から選択	・学位記授与

VIII 【博士後期課程】履修概要

1 科目一覧

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位		履修要件
				必修	選択	
基幹展開科目		学際ナノ生命科学概論※1	1		1	・基幹展開科目から、必修科目を含む3単位以上修得すること。 ・※1 本専攻博士前期課程を修了していない者は履修することが望ましい。 ・※2から1単位以上修得すること。
		ナノ生命科学特論	1	1		
		次世代研究者倫理	1	1		
		次世代イノベーション開拓 ※2	1		1	
		数理・データサイエンス・AI発展 ※2	1		1	
ナノ生命科学革新科目	ナノ計測学	ナノ計測工学特論	1・2・3		1	・ナノ生命科学革新科目から、4単位以上修得すること。
		ナノバイオ材料学	1・2・3		1	
		ナノバイオ計測学	1・2・3		1	
		生体分子構造動態論	1・2・3		1	
		生体分子の機能ダイナミクス論	1・2・3		1	
		電気化学計測特論	1・2・3		2	
		生体エネルギー論	1・2・3		1	
	超分子化学	錯体機能化学探求	1・2・3		2	
		高分子精密合成論	1・2・3		2	
	生命科学	分子細胞生物学	1・2・3		1	
		放射線生物学	1・2・3		1	
		遺伝子発現制御学	1・2・3		2	
	数理計算科学	SPMシミュレーション特論	1・2・3		2	
		生体材料力学と計算力学	1・2・3		2	
高度スキル科目◆		博士実践スキル養成	1・2	1		
高度プロジェクト科目◆		萌芽的先鋭研究実習	1・2	1		・高度プロジェクト科目から必修科目を含む2単位以上修得すること。 ・※3から必ず1単位以上修得すること。
		研究留学A ※3	1・2		1	
		研究留学B ※3	1・2		2	
		研究留学C ※3	1・2		4	
		学外高度実務プロジェクト実習 ※3	1・2		1	
		学外高度研究プロジェクト実習 ※3	1・2		2	
		ジョブ型研究インターンシップ	1・2		2	
高度研究推進科目		先鋭的学際演習Ⅰ◆	1～3	2		・高度研究推進科目から、必修科目を含む10単位以上修得すること。
		先鋭的学際演習Ⅱ◆	1～3	2		
		先鋭的学際演習Ⅲ◆	1～3		1	
		ナノ生命科学博士研究論文	1～3	6		

20単位以上修得すること。

◆マークは事務で履修登録するため学生の登録不要。

2 授業科目の体系と区分・単位修得要件

2.1 基幹展開科目

「基幹展開科目」は、ナノ生命科学研究者として全方位的な研究を行うために必要な視点を強固にすることを目的とし、1年次に、「次世代研究者倫理」(1単位)、「ナノ生命科学特論」(1単位)を設け、必修科目として位置付ける。ここでは、社会で信頼される研究を遂行し、研究者として自立するための倫理、規範意識、科学の社会的責任、研究費について取り扱う。また、博士後期課程からナノ生命科学を学ぶ学生を対象とし、ナノスケールのバイオ SPM 技術をベースとしたナノ生命科学の基礎となる知識基礎を履修する科目として「学際ナノ生命科学概論※」を設ける。※本専攻の博士前期課程修了者は履修不要。

【基幹展開科目の単位修得要件】

- ・3単位以上修得すること。
- ・「次世代研究者倫理」「ナノ生命科学特論」を履修すること。
- ・「次世代イノベーション開拓」「数理・データサイエンス・AI発展」から1単位以上修得すること。

2.2 ナノ生命科学革新科目

「ナノ生命科学革新科目」は、博士前期課程ナノ生命科学基盤科目の「基礎科目」及び「専門科目」よりも高度なレベルの「高度専門科目」として位置付け、最先端のナノ生命科学を研究する上で必要な最新の学術動向等を学修するため、ナノ計測学、超分子化学、生命科学及び数理計算科学の各分野について、新たな領域の研究への挑戦に必要な最新の知見等を学ぶため、各分野2～5科目を配置する。

【ナノ生命科学革新科目の単位修得要件】

- ・4単位以上修得すること。

2.3 高度スキル科目

最先端の研究者として必須となる実践的な研究技能を身に付けるための「高度スキル科目」においては、「博士実践スキル養成」(1単位)を必修科目として位置付け、研究計画の立案するにあたり、データベースや文献などによる情報収集の方法やその分析方法、それらの分析などを参考として問題を発見し、課題を解決するための研究計画を立案し、文章化する方法を学ぶ。また、研究者として、学会や会議等で発表するためのプレゼンテーション技法等のサイエンスコミュニケーションに関する技術や研究を完遂する上で必要となる研究プロジェクトのマネジメント方法等のスキルを学修する。

【高度スキル科目の単位修得要件】

- ・「博士実践スキル養成」(1単位)を修得すること。

2.4 高度プロジェクト科目

国内外の研究者とコミュニケーションしながら、真理を探究する姿勢を身に付け、研究者としての実践を積むための「高度プロジェクト科目」においては、「萌芽的先鋭研究実習」(1単位)を必修科目として位置付ける。この科目は、学外の研究者との共同研究に参加することにより、分析技術とコミュニケーション能力の向上を図り、研究対象の捉え方や、将来の共同研究への展開も見据えた研究ネットワークの構築を図らせる。

また、学外での研究実習等をおこなった場合、実習先と期間により次のとおり単位を認定する。

- ①研究留学A：1週間以上2週間未満の海外の大学、研究機関等における研究実習
- ②研究留学B：2週間以上1か月未満の海外の大学、研究機関等における研究実習

③研究留学 C：1 か月以上の海外の大学、研究機関等における研究実習

④学外高度実務プロジェクト実習：2 週間以上の海外企業やグローバル企業等におけるインターンシップ

⑤学外高度研究プロジェクト実習：2 週間以上の国内大学、研究機関等における研究実習

⑥ジョブ型研究インターンシップ：長期・有給・ジョブ型の研究インターンシップ

①～⑤の実習先について、主任指導教員と相談の上決定すること。

⑥については、アカンサスポータル<LMS コース<新学術創成研究科就職支援 を参照すること。参加する場合は、大学院係まで申し出ること。

※学生はなるべく早めに主任研究指導教員に相談し、1・2 年次で実施するのが好ましい。提出書類や必要な手続きがあるため、実習開始前 1 か月前までに大学院係まで申し出ること。提出書類等の各種様式は、ガイドブックの「各種様式」に掲載しているが、研究科 Web サイト「在学生へ」のページからもダウンロードできる。詳細については、「Ⅶ 研究留学・学外高度実習」で後述する。

【高度プロジェクト科目の単位修得要件】

- ・「萌芽的先鋭研究実習」を含む 2 単位以上修得すること。
- ・「研究留学 A」「研究留学 B」「研究留学 C」「学外高度実務プロジェクト実習」「学外高度研究プロジェクト実習」のいずれかを必ず修得すること。

2.5 高度研究推進科目

自身の研究分野に関する課題を解決し、研究完遂能力、プレゼンテーション力を涵養する「高度研究推進科目」として、「先鋭的学際演習Ⅰ」、「先鋭的学際演習Ⅱ」（各 2 単位）及び「ナノ生命科学博士研究論文」（6 単位）を設け、必修科目として位置付ける。「先鋭的学際演習Ⅰ」、「先鋭的学際演習Ⅱ」においては、副研究指導教員の指導・助言により、研究、討論、学修等を通して、自身の研究課題に対して異分野からのアプローチ法を身に付け、自身の主テーマに関する知見をさらに深化させる。具体的には、1 年に 2 回を目安として、2 名の副指導教員からの研究指導を受ける。また、2・3 年次にランチョンセミナーを実施し、自身の研究についてプレゼンテーションやそれに対する質疑応答を行う。「ナノ生命科学博士研究論文」においては、主任指導教員の下、博士前期課程を含め、これまで学んだナノ計測学、超分子化学、生命科学及び数理計算科学の知見や研究成果を基に、英語論文の作成指導も受けながら、博士論文の質の向上を図り、博士論文をまとめる。

【高度研究推進科目の単位修得要件】

- ・「先鋭的学際演習Ⅰ」、「先鋭的学際演習Ⅱ」及び「ナノ生命科学博士研究論文」を含む 10 単位以上修得すること。

3 修了要件

以下に示す要件を全て満たしていることが修了に必要なこと。なお、修了要件を満たしているか否かの確認は、指導教員と相談の上、各自責任を持って行うこと。

- (1) 原則として博士後期課程に 3 年以上在学すること。
- (2) 必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること。
- (3) 前述の 2.1 から 2.5 の単位修得要件を満たして認定を受けた単位を含めて、計 20 単位以上を修得すること。
- (4) 本学の他専攻で開講される科目についても、15 単位まで修了要件に含めることができる。例えば、自分の主任研究指導教員が他研究科向けに開講している科目の単位を修得した場合、15 単位までであれば修了要件に含めることができる。ただし、博士課程もしくは博士後期課程の科目かつ当該研究科が履修を許可した科目に限る。
- (5) 入学前に他大学院で修得した単位及び本学他研究科を含む他大学院で修得した単位は、研究科会議が認め

た場合、(4) で修得した単位と合わせて 15 単位まで修了要件に含めることができる。

- (6) 本学では英語能力強化の一環として、博士後期課程に入学した学生は、原則全員が、英語の外部検定試験を在学中に受験することとしている。修了予定月の 3 か月前までに在学期間中に受験したスコアの控えをアカンサスポータルに登録すること。これを「ナノ生命科学博士研究論文」の単位認定の要件とする。

TOEIC (Listening & Reading Test) TOEIC (Listening & Reading IP Test)	TOEFL-iBT	TOEFL-ITP	IELTS
450	46	453	4

なお、以下に該当する場合は英語検定試験の受験を免除することができる。

- ① 本学が定める達成基準（TOEIC 760 点、TOEFL-iBT 80 点、TOEFL-ITP 550 点又は IELTS 6.0 以上、英検準 1 級）を満たし、入学時点において有効なスコアを有する者

※ただし、入学日から遡って 2 年以内に受験したものをアカンサスポータルに登録すること

- ② 一般に英語を公用語とする国（以下参照）に生まれ育ち、英語を第一言語として獲得した者をいう。英語母語話者を判定する手段として当人の国籍を用いる。なお、英語母語話者と判定された場合でも、主任研究指導教員の判断により受験させることができる。

英語を公用語とする国一覧

アイルランド、アメリカ、アンティグア・バーブーダ、イギリス、イスラエル、インド、ウガンダ、エリトリア、オーストラリア、ガイアナ、ガーナ、カナダ、カメルーン、ガンビア、キリバス、クック諸島、グレナダ、ケニア、サモア、ザンビア、シエラレオネ、ジャマイカ、シンガポール、ジンバブエ、スーダン、スワジランド、セーシェル、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン、セントルシア、ソマリランド、ソロモン諸島、タンザニア、ツバル、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、トンガ、ナイジェリア、ナウル、ナミビア、ニウエ、ニューージーランド、パキスタン、バヌアツ、バハマ、バブアニューギニア、パラオ、バルバドス、フィジー、フィリピン、ベリーズ、ボツワナ、マーシャル諸島、マラウイ、マルタ、ミクロネシア連邦、南アフリカ、南スーダン、モーリシャス、リベリア、ルワンダ、レソト

- (7) 博士論文の外国語での執筆を推奨するが、特別な事情による例外措置を認める。例外措置を適用した場合は、論文の内容を記述した英語での文書（ショートペーパー：博士論文では 1000～2000 語程度、図表入りで 4 ページ以内）を別途作成し、論文に付する。なお、上記の文書を付する場合も、併せて日本語の論文要旨を提出することは差し支えないものとする。

4 早期修了制度

在学中に優秀な実績を上げた者は、在学期間を短縮し早期修了することができる。

早期修了の基準は以下のとおりである。希望する者は、早期修了を希望する学位申請の 1 か月前までに大学院係まで申し出ること。

- ① 早期（短期）修了を希望する学位申請の時点の直前の学期（クォーター）において、修了要件のうち、原則として、高度研究推進科目以外の単位を修得していること。
- ② 早期（短期）修了を希望する月の 3 か月前までに、学生本人が筆頭著者又は責任著者であり、かつ、博士後期課程在学中に投稿した査読付き学術論文（掲載される雑誌は、Scopus に掲載されている学術誌に限る。）が 2 本以上公表又は掲載決定されていること。

5 長期履修制度

職業を有している等の事情により標準修業年限内での修学が困難な者に対して、標準修業年限を超えて一定の

延長期間を加えた期間に、計画的な教育課程の履修を認める。

長期履修期間を短縮して学位申請を行う場合、事前に（修了を希望するおおよそ7か月前までに）短縮手続きが必要になるので注意すること。

6 履修モデル

【博士後期課程】	博士後期課程修了	博士後期課程修了	博士後期課程修了
研究指導科目； 10単位必修	先鋭的学際演習Ⅰ 先鋭的学際演習Ⅱ ナノ生命科学博士研究論文	先鋭的学際演習Ⅰ 先鋭的学際演習Ⅱ ナノ生命科学博士研究論文	先鋭的学際演習Ⅰ 先鋭的学際演習Ⅱ ナノ生命科学博士研究論文
高度プロジェクト科目； 2単位必修	萌芽的先鋭研究実習 研究留学C	萌芽的先鋭研究実習 研究留学B	萌芽的先鋭研究実習 学外高度実務プロジェクト実習
高度スキル科目； 1単位必修	博士実践スキル養成	博士実践スキル養成	博士実践スキル養成
ナノ生命科学革新科目； 4単位必修	ナノ計測工学特論 ナノバイオ計測学 電気化学計測特論 生体エネルギー論	分子細胞生物学 放射線生物学 遺伝子発現制御学	錯体機能化学探求 高分子精密合成論
基幹展開科目； 3単位必修	ナノ生命科学特論 次世代研究者倫理 次世代イノベーション開拓	ナノ生命科学特論 次世代研究者倫理 数理・データサイエンス・AI発展	ナノ生命科学特論 次世代研究者倫理 次世代イノベーション開拓
	ナノ計測を研究する学生	生命科学を研究する学生	超分子化学を研究する学生

7 履修登録・成績通知等

7.1 履修登録

履修登録は、Web を利用して行う。詳細は別途通知する。

本専攻開講科目以外の科目の履修を希望する場合は、「他専攻授業科目履修願」（様式は研究科 Web サイトよりダウンロード可）に必要事項を記入し、授業担当教員及び主任研究指導教員の許可を受けた上、本研究科が指定した期間（Q1・Q2・Q3・Q4 の計4回）に大学院係まで提出すること。

履修登録日程は、以下を参照

<https://gsinfiniti.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/>

「金沢大学大学院新学術創成研究科 Web サイト」→「在学生へ」→「ナノ生命科学専攻」

7.2 成績通知

成績は Web により通知する。

7.3 シラバス

シラバスは本学 Web サイトにて公開する。

8 研究留学・学外高度実習

8.1 授業科目

- 「研究留学 A」 実習期間：1 週間以上 2 週間未満の海外の大学、研究機関等における研究実習(1 単位)
- 「研究留学 B」 実習期間：2 週間以上 1 か月未満の海外の大学、研究機関等における研究実習(2 単位)
- 「研究留学 C」 実習期間：1 か月以上の海外の大学、研究機関等における研究実習(4 単位)
- 「学外高度実務プロジェクト実習」 実習期間：2 週間以上の海外企業やグローバル企業等におけるインターンシップ(1 単位)
- 「学外高度研究プロジェクト実習」 実習期間：2 週間以上の国内大学、研究機関等における研究実習(2 単位)
- 「ジョブ型研究インターンシップ」 実習期間：長期・有給・ジョブ型の研究インターンシップ(2 単位)

8.2 実習時期

- ・特に定めがないが、主任研究指導教員になるべく早く相談し、1・2 年次の学期休み期間中（特に夏休み期間）に参加することを推奨する。
- ・遅くとも 3 年次の修了予定月の 3 か月前には終了し、報告書を提出していること。
- ・原則、オンラインではなく対面での実施とする。ただし、やむを得ない理由で実施する場合は、主任指導教員と大学院係に確認を取ること。

8.3 実習日数

- ・原則、1 か所において 1 週間は 5 日、1 日は 8 時間を目安とする。
- ・学会発表期間・移動期間等、実習を行わない日は実習日数に含めない。

8.4 実習先

- 「研究留学、学外高度研究実習」
大学（出身研究室を除く）、研究機関、研究所、試験施設又はそれに準ずる機関
- 「学外高度実務実習、インターンシップ」
海外企業やグローバル企業等

8.5 実習先の探し方

- ・新学術創成研究科の就職支援情報から
アカンサスポータル>LMS コース>新学術創成研究科就職支援
 - ・企業の Web サイトや就職情報サイトなどから
 - ・本学の就職支援室 Web サイトの募集一覧から(<https://career-support.adm.kanazawa-u.ac.jp/internship/>)
 - ・本学の理工系インターンシップ Web サイトの受入企業一覧から
(<https://www.se.kanazawa-u.ac.jp/gakunai/internship/index.html>)
- ※ただし、こちらの掲載企業へは受入交渉が必要となるため、大学院係へ相談すること。
- ・主任研究指導教員の紹介

8.6 届出及びフィードバックシート

実習先に評価をしてもらうため、フィードバックシートの記入を依頼する必要がある。実習先が決まったら、実習の始まる遅くとも 1 か月前までに「学外実習科目届出書兼誓約書」及び「留学計画書」（様式は研究科 Web サイトよりダウンロード可 <https://gsinfiniti.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/>）を大学院係へ提出すること。その後、大学院係にて実習先宛てに E メールでフィードバックシートの記入依頼をする。フィードバックシートの内容は、後日、学生本人にも「フィードバックスコア」としてフィードバックする。

8.7 研究留学・学外高度実習の事前研修（研究留学・学外高度実習履修者 必修）

研究留学・学外高度実習履修者は、事前研修として、キャリア支援室「インターンシップガイダンス」・「ビジネスマナー」の2動画を視聴すること。

アカンサスポータル>LMS コース>キャリア支援室>インターンシップ事前研修

8.8 保険への加入

入学手続き時に加入を義務付けていた以下の2つの保険に加入していない者は、インターンシップには参加できない。未加入の場合は、速やかに加入すること。・「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)

- ・「学研災付帯賠償責任保険 A コース」(付帯賠償)

※外国人留学生については、以下のとおり

- ・「学生教育研究災害傷害保険」(学研災)
- ・「外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険」(インバウンド付帯学総)

実習先が海外の場合（海外渡航の諸手続）

以下の URL を確認し、本学学生が海外へ渡航する際に必要な手続を漏れのないよう必ず行うこと。

金沢大学>国際交流・留学>海外へ留学したい>危機管理・保険

(<https://www.kanazawa-u.ac.jp/global-network/studyabroad/risk-management/for-student-en/>)

8.9 旅費補助

別途案内する。

8.10 研究留学・学外高度実習報告書

実習終了後1か月以内に、「研究留学・学外高度実習報告書」(様式は研究科 Web サイトよりダウンロード可)を記入し、主任研究指導教員へ実習内容を報告して署名をもらった上、大学院係へ提出すること。

8.11 成績評価

実習先より提出された「フィードバックシート」、本人提出の「研究留学・学外高度実習報告書」等により、総合的に評価する。

8.12 実習における注意点

- ・一旦受入先が確定した後は、原則、途中で辞めたりしないこと。
- ・実習中の態度が悪いと、自分だけでなく、次年度以降の受入れや求人に悪影響を与えることがあるので、「金沢大学を代表している」ことを肝に銘じること。
- ・守秘義務を厳守すること。実習中に知り得た情報は、実習後も未来永劫秘密にすること。また、知り得た情報を SNS や掲示板等に絶対に書き込まないこと。
- ・万が一、受入先の備品を破損・紛失してしまった場合でも、保険が適用となるので必ず申し出ること。また、備品を勝手に持ち出さないこと。

8.13 その他

- ・実習先が海外である場合、別途危機管理オリエンテーション等を受講する必要がある。
- ・単位認定の対象（正課）でない研究留学・学外高度実習に参加する場合も、万が一の際に保険を適用させるため、必ず実習前に「研究留学・学外研究実習等届出書兼誓約書」を大学院係へ提出すること。

IX 【博士後期課程】教育・研究指導体制

教育・研究指導体制として、まず1年次4月、出願時に希望した主任研究指導教員の研究室に配属し、その後、速やかに副主任研究指導教員を決定する。これにより、教員が連携して研究指導を行う体制を確保し、学生個人ごとにきめ細やかな指導を行う。

1 主任研究指導教員

主任研究指導教員は、当該学生に対する教育研究上の指導の中心を担うものであり、研究テーマに関する授業の履修指導、研究指導、学位論文の作成指導等を行い、副主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の指導に注力する。

2 副主任研究指導教員

副主任研究指導教員は、主任研究指導教員と連携をとりながら、当該学生の研究が複数の科学分野の融合を実践していけるものとなるよう、主任研究指導教員とは異なる見地からの指導・助言を行う。

3 面談教員

面談教員は、直接研究指導に携わる主任研究指導教員や副主任研究指導教員とは異なる立場から学生との面談を行い、研究の進捗状況及び研究環境全体（学生生活含む）に関する問題の早期発見、相談、助言を行う。なお、面談教員の決定通知後は、学生が直接、担当教員へ連絡を取り、年2回（6月・11月頃目安）の面談を受けること。

4 研究計画書

主任研究指導教員指導のもと、研究テーマ、研究目的、研究内容、及び入学から学位取得までの研究スケジュール、及び各年度の履修科目を策定する。

1. 入学後速やかに、研究計画書（様式1）に入学から修了までの研究計画を作成し、主任研究指導教員から研究指導の計画を受け、指導教員と協議の上決定する。研究計画書（様式1）は、主任研究指導教員及び学生相互に保管する。
2. 主任研究指導教員に定期的に研究の進捗状況に関する報告を行い、主任研究指導教員と協議の上、必要に応じて1.で作成した研究計画を見直し、修正する。
3. 各年度当初には、研究計画書（様式1）に沿って履修及び研究計画書（様式2）を作成し、主任研究指導教員に提出すること。

研究計画書様式：<https://gsinfinity.w3.kanazawa-u.ac.jp/student/>

X 【博士後期課程】学位授与

1 学位申請

高度研究推進科目を除く修了要件を満たす見込みがつき、学位の授与を申請する者は、主任研究指導教員の下承を得た上で、学位申請書及び必要な書類を大学院係に提出しなければならない。

学位申請書の提出時期は、修了予定月の2か月前の本学が指定する日までとする。

2 博士論文の提出

学位申請者は、主任研究指導教員の下承を得た上で、本学が指定する日までに博士論文を大学院係に提出しなければならない。

3 最終発表

学位論文の最終審査として、公聴会及び最終試験を行う。公聴会は、学位論文の内容について発表し、教員及び学生に対して公開することにより、審査の厳格性や透明性を担保する。また、別途、学位論文に関連する科目について、審査委員会により最終試験を行う。

4 学位論文審査

学位論文の審査は、本学において行う。同審査の審査委員は5名以上で構成する。審査に当たっては、論文指導会及び最終発表で付された評価や意見を十分に考慮した上で判定を行う。

5 学位の授与

上述の学位論文審査の結果を踏まえて、研究科会議において、学位の授与に関する審査について審議する。研究科会議では、学位論文審査結果を基に、学生の最終発表で付された評価や意見についても確認した上で、ディプロマ・ポリシーに掲げる

- ① ナノ生命科学に関して自身の探求心・興味・関心に基づき全方的に研究を実施できる能力
- ② 自身の研究分野と他分野を融合させ研究を完遂する能力
- ③ 未踏の学際領域や新たな分野を開拓する能力
- ④ 基盤的な研究分野に係るプレゼンテーション力・コミュニケーション力・文書作成能力

の観点から合議により審議する。当該結果を受けて研究科会議等における必要な議を経た後、学位を授与する。

6 授与する学位

博士（ナノ科学）

7 学位取得に至るスケジュール

以下は、3年間で課程を修了する場合の標準的なスケジュールである。主な事項のみを記してあるため、これ以外の事項及び具体的な日程については、随時通知等で確認すること。

年次	月	事項
1	4	・研究室配属 ※主任研究指導教員の研究室に配属 ・副主任研究指導教員の決定
	5	・研究計画書の作成 ・面談教員の決定
1～2	通年	・授業科目の履修
1・2	11	・発表(リトリート・コロキウム)
2・3	10～12	・ランチョンセミナー
3	12	※以下について完了していること ・英語スコアの登録 ・研究留学・学外実務/研究プロジェクト実習
	1	・学位申請書等提出 ・博士論文提出
	2	・最終発表会 ・博士論文審査
	3	・学位記授与

XI ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム

「卓越大学院プログラム」は、新たな知の創造と活用を主導し、次代をけん引する価値を創造するとともに、社会的課題の解決に挑戦して社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材（高度な「知のプロフェッショナル」）の育成を目的とし、国内外の大学、研究機関や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築するものである。

「ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム」では、ターゲットを人類社会の課題である「がん、生活習慣病、脳神経病、微小粒子・ナノ材料による疾患」の5つに絞り、世界トップレベル研究力・研究者を有する「ナノ生命科学研究所（WPI-NanoLSI）」の卓越した研究環境・実績の下、ナノレベルでの理解・制御による革新的予防・診断・治療法の創出を担い、Society5.0の実現に欠かせない人々の健康基盤構築のためのイノベーションを起こす人材を育成する。

本研究科の合格者のうち、ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラムの選抜試験に合格した学生は、「ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム」を履修することができる。

融合科学共同専攻の学生が「ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラム」を履修した場合の単位の取り扱いは次のとおりとする。

■博士前期課程

授業科目の名称	単位数		修得単位の扱い
	必須	選択	
ナノ精密医学・理工学概説	1		自由履修科目 ※1
ナノ科学概論 ※2	2		-
環境・エネルギー技術英語		1	自由履修科目 ※1

※1 他研究科等の修得単位も含め15単位まで修了要件に含めることができる。※2 ナノ生命科学専攻開講科目「ナノ生命科学基礎」及び「ナノ計測工学基礎」の単位を修得した場合、ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラムの「ナノ科学概論」の単位を修得したものとみなす。

■博士後期課程

授業科目の名称	単位数		修得単位の扱い
	必須	選択	
ナノ科学融合実践演習	1		基幹展開科目 ※3
未来型ナノ先制医学論		2	基幹展開科目 ※3
統合ナノ神経科学論		2	基幹展開科目 ※3
環境ナノ物質制御論		2	基幹展開科目 ※3
先進ナノ診断開発論		2	基幹展開科目 ※3
レギュラトリー・サイエンス		2	基幹展開科目 ※3
メディカル・イノベーション		2	基幹展開科目 ※3
実践英語		2	基幹展開科目 ※3
メディカル・イノベーション演習		2	基幹展開科目 ※3
国際コミュニケーション演習		1	基幹展開科目 ※3
ビジネス・技術マネジメント戦略論		1	基幹展開科目 ※3
イノベーション方法論A		1	基幹展開科目 ※3
イノベーション方法論B		1	基幹展開科目 ※3

※3 他研究科等の修得単位も含め15単位まで修了要件に含めることができる。

XII その他

1 事務からの連絡

学生への連絡は、その内容に応じ、次の3つの方法で行うので見落とさないようにすること。なお、連絡を見落としたことによる不利益は救済しない。入学手続き時に登録したメールアドレスを変更した場合は、必ず大学院係へ連絡すること。

1. 主に研究科からの案内：入学手続き時に登録したメールアドレス（連絡の取りやすいアドレスへ変更可）宛にメールにて通知
2. 中長期的に掲示が必要な案内：研究科 Web サイトの「在学生へ」のページに掲載
3. 他の Web サイトでも公開されている又は各種イベント等の案内：アカンサスポータルにて通知

アカンサスポータルでは、各種通知を個人の E メールアドレスに転送することができる。「設定」メニューの「転送用・緊急用メールアドレス設定」から、転送設定を行う等により、見落とすことがないようにすること。アカンサスポータルの利用について不明な点があれば、ポータル内の「問い合わせ」ページから、FAQ で確認するか、フォームにより問い合わせること。

2 学生証

学生証は、オリエンテーションにて配布する。身分を証明する以外にも、以下のとおりさまざまな機能を持ち、IC チップが埋め込まれているため、磁気に近づけない、強い衝撃を与えない等、取扱には十分注意すること。また、他人との貸し借りは絶対に行わないこと。紛失又は破損の場合は、交付手数料（2、452 円）が必要となる。

- 一部の授業を受ける際の出席管理として
- 一部の建物の入館の際にカードキーとして
- 事前にチャージし、学内の食堂や生協で電子マネーにて支払うとき
- 図書館で本を借りるとき
- 定期健康診断を受けるとき
- 証明書自動発行機で各種証明書の交付を受けるとき

なお、紛失や盗難にあった時は、直ちにアカンサスポータルにて、IC カード一時停止申請を行うとともに大学院係に届け出て、再交付の手続を行うこと。

修了、退学等で大学の学生でなくなった場合は、速やかに融合系事務部学生課に返却すること。

3 アカンサスポータル・金沢大学 ID

本学では、ポータルサイト「アカンサスポータル」を運用しており、履修登録、成績通知のほかにも大学からの事務連絡やスケジューラー機能等さまざまな用途がある。ログインに必要な「金沢大学 ID」と「仮パスワード」はオリエンテーションにて通知するが、「金沢大学 ID」は生涯 ID でとても大切となるので、しっかりと管理すること。なお、詳細は学生便覧を参照すること。

4 KAINS ID・E メールアドレス

本学で、E メールアドレスを取得したり、無線 LAN 等を利用したりするためには、KAINS ID を登録する必要がある。登録は本学の「学術メディア創成センター」の下記 URL より行うこと。

<https://account.kains.kanazawa-u.ac.jp/>

なお、取得した KAINS ID は、そのまま本学の E メールアドレスになる。

（例：登録した KAINS ID が abcdefg の場合、abcdefg@stu.kanazawa-u.ac.jp が E メールアドレス）

5 VPN の設定

総合メディア基盤センターの提供する VPN サービスを利用することにより、学外からでも学内と同じ環境で金沢大学のネットワークが利用できる（前述のネットワーク ID が必要）。

VPN サービスを利用することにより、学内限定で公開されているホームページや、附属図書館の提供する電子ジャーナル、論文検索データベース（一部不可の物もあり）の利用が学外からでも可能になる。

詳しくは、学術メディア創成センターの Web サイト <https://www.emi.kanazawa-u.ac.jp/kains-vpn/> を参照すること。

6 マイクロソフト包括ライセンス

本学では、Microsoft や Adobe との包括ライセンス契約をして、多くのソフトウェアを学生・教職員に無償提供している。大学での利用にあたっては、ライセンス契約（対象者、利用方法等）を学術メディア創成センターの Web サイト <https://www.emi.kanazawa-u.ac.jp/services/> で確認し、正しく利用すること。

7 ソフトウェア等の不正利用の厳禁

インターネット上では、違法な海賊版（不正コピー）ソフトウェアが無料で流通、あるいは安価に販売されている。正規版は高額だからといって、手軽に入手できる海賊版を安易に利用することは絶対にやってはいけない。ソフトウェアの不正利用は刑事罰や民事訴訟の対象になることがある。近年、大学において学生による不正利用のため当該学生に高額なペナルティが課せられた事案が発生している。

購入した正規版であっても、その不正コピーや購入したライセンス数以上の利用等のライセンス契約に反する利用は、刑事罰や民事訴訟の対象になることがある。

また海賊版のダウンロードサイトは違法サイトであり、違法サイトからのダウンロードしたファイルを自身の PC にインストールすることは、ランサムウェア等のマルウェア被害発生の確率を高め、学生の PC のみならず当該学生周辺、ひいては金沢大学の情報環境に甚大な被害を発生させる危険性を高める。

ソフトウェア不正利用が本学で生じると、法人教職員・学生としてコンプライアンス意識の低さを露呈することになり、社会的信用の失墜につながるため絶対に行わないこと。また、ソフトウェアについては、正規のルートに必要なライセンス数を購入し、利用にあたっては著作権や使用許諾条項を遵守するよう細心の注意を払うこと。

8 休学・復学・退学

病気又はその他の事由により、1 か月以上修学を中止しようとする場合は、研究科長に届け出て、休学することができる。休学の期間は、休学の開始日から、その年次の各クォーター、各学期又は学年の終わりまでとする。また休学期間中に復学しようとする場合も、研究科長に届けが必要である。

休学・復学・退学の届け出を行う場合には、必ず指導教員、面談教員等に相談し、必要な手続きについては融合系事務部学生課に確認すること。

9 経済支援

本学の経済支援制度については、以下の Web サイトを参照すること。

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/students/>

「金沢大学 Web サイト」→「教育・学生支援・学生活動」→

「経済的支援・各種奨学金 / Financial support ・ Scholarships」

10 各種証明書

在学証明書や成績証明書、学割等は、本籍大学にて発行する。本学においては、学内9か所に設置された自動発行機で発行できる証明書（学割証・成績証明書等）と、大学院係へ申請が必要な証明書（奨学金受給証明書・学研災保険加入証明書等）があるため、詳細は学生便覧や大学の Web サイトを参照すること。

11 駐車許可証

自家用車での通学は、交通ルールを順守し、くれぐれも安全運転に留意すること。

キャンパス内に駐車する際には、駐車許可証の提示が必要である。駐車許可証交付希望者は、4月上旬及び10月上旬の申請期間に Web により申請を行う。審査の結果、許可されれば当該年度末までを有効期間とする駐車許可証の交付が認められる。駐車許可証が交付されるためには、交通安全テスト（Web）を受講し、必要書類の確認を受ける必要がある。事前の掲示や通知で手順の詳細を確認すること。

なお、特に事由のある者には、有効期間を短期間とする臨時駐車許可証を交付する。詳細は融合系事務部学生課に問い合わせること。

駐車許可を受けていない車、指定された駐車場以外での駐車は、駐車違反警告の対象となる。警告が度重なる場合は駐車違反ポールが取付対象となる。悪質な駐車違反は、懲戒処分の対象ともなる。

12 各種手続

新学術創成研究科学生の各種手続等の窓口は、融合系事務部学生課大学院係（自然科学本館1階）となる。

TEL 076-264-5971 E-mail s-yugo@adm.kanazawa-u.ac.jp

13 住所等の登録・変更

現住所、電話番号、父母等住所・電話番号をアカンサスポータルから学務情報サービスを利用して学籍情報に入力すること。変更があった場合も同様に学籍情報を修正する。

なお、現住所変更の場合は、同時に郵便局、銀行等にも必ず届け出る必要がある。

また、郵便物、宅配等の宛先や連絡先を大学の住所に絶対にしないこと。

新学術創成研究科規程

以下に掲載しています。

「アカンサスポータル」→「教育 LMS コース（WebClass）」→

「その他情報 新学術創成研究科（共通）」

担 当 金沢大学 融合系事務部 学生課 大学院係
〒920-1192 石川県金沢市角間町
電話 076-264-5971
E-mail s-yugo@adm.kanazawa-u.ac.jp